
異世界珍道記

八郎の母ちゃん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界珍道記

【Nコード】

N0995Z

【作者名】

八郎の母ちゃん

【あらすじ】

高校生だった俺と親友は突如として異世界に召喚される。親友は勇者として、俺はおまけとして。

まあせっかく異世界に来たんだから勇者の役目はあいつに任せて俺は異世界ライフを満喫するかなーっと。

導入

俺の名は坂本次郎。

高校生だった。ごく普通のな。

普通に学校に行って、普通に勉強して、普通じゃない友達と遊んで。そんな感じで毎日を過ごしてる。

友達は普通じゃないのかって？

普通じゃないさ、まったくな。

町を歩けば誰もが振り返るような超絶イケメンで、そのうえ文武両道。

テストでも学年上位、ではなくトップ。

普段からガリガリ勉強してるような奴を差し置いてな。性格も明るくて学校の人気者ときてる。

うちの学校の女子はほとんどが惚れてんじゃないか？

俺の学年のカップル率が少ないのもあいつが原因だろうな。

たまに恨みのこもった視線を感じるのがその証拠だ。

まあそんな容姿端麗、文武両道男の俺の親友は普通とは言えないわ

けだ。

普通の俺と普通じゃない親友。

ん？

そんな親友がいたら色々苦労するんじゃないかって？

まあ苦労はしてるさ、それなりにな。

あくまでそれなりにだ。

男どもの嫉妬に殺到する女どもの恋文配達依頼。

優秀過ぎる親友との比較や普通な俺に対するやつかみってところか？

対したことじゃないだろう？

男子の視線はスルーすればいいし、全員がそんな視線を向けてくるわけじゃない。

女子の依頼は受けなければいいだけだ。

そのことで文句を言う奴もいたが、俺からすればラブレターすら直接渡せない奴が付き合えるのだったの。

そもそも俺があいつにラブレター渡すとかありえない。

男の俺が女が買うような紙をあいつに渡すとか気持ち悪いわ。

周囲の比較もやつかみも気にする価値もないだろう。

面と向かって俺みたいな普通の人間があいつといるのはおかしい、釣り合わないとか言ってきた面白い奴もいたが、そんな奴にはならお前はどうなんだ？って聞いてやったさ。

俺よりは優れてるみたいなことを言ってたけど、その度にダメ出ししてやったな。

あいつと比べたら大したことないってな。

自分のことを棚に上げて俺とあいつをだけを比較してたみたいだったな。

ロクな答えが返ってこなかったうえに、終いには殴りかかってきやがった。

まあ瞬殺してやったよ。

これでも結構鍛えてるのさ、実戦で。

その時点で普通じゃないって？

いやいや、普通じゃない親友を持つ人間には普通なのさ。

俺の親友はとにかく目立つ。
どこに行っても。

あいつのことを知らない人間もイケメンなあいつを見たら注目するだろう。

注目されるってことはいいことばかりじゃない。

いい奴だけじゃなく悪い奴にも注目されるってことだからな。

町を歩いてると結構な頻度であいつのせいで振られたって男が喧嘩を売ってくる。

いや、襲ってくるの間違いだったか。

酷い時には1日に何度も。

当然、一緒にいる俺も含めて。

迷惑だと思っただか？

確かに巻き込まれるのは迷惑だがあいつが悪い訳じゃないし、あいつだって苦労してる。

優秀な奴は優秀故にな。

だから俺はあいつの親友でいるし、喧嘩も手伝っさ。

親友だからな。

そんな感じで修羅の日々を過ごしてきた俺とあいつは必然的に強くなっただのさ。

鍛錬を重ねれば誰だって強くなる。

そうだろ？

とにかく、俺とあいつは普通の高校生ライフを過ごしてたんだ。

でもってそれがずっと、少なくとも卒業するまでは続くと思ってた。

え？今までのが前置きなの？
とか思ってたりする？

俺も長い前置きだとは思っよ。

悪いな。

けど話はこれからなのさ。

日常を過ごしてた俺とあいつはひょんなことから非日常に足を踏み入れちゃった。

俺達は自分の意志に関係なく、否応なしにその非日常に引き込まれた。

正確にはあいつだけがな。

あの時のことは今でも覚えてる。

あまりにも唐突な非日常の訪れに俺もあいつも気が動転してた。

まともな判断なんて出来なかったしその時間もなかった。

突然の出来事に俺もあいつも何も出来ずに呆然としてるだけだった。

ただ、ひとつだけ正しかったんだと言えることがある。

消えていくあいつの手を掴んだこと。

引き込まれていくあいつを見捨てなかったこと。

これだけは正しかったと言える。

絶対に。

俺の話、聞いてくれないか？

かなり長くなるし、俺の視点からの話になる。

飲み物も用意するし、菓子も出そう。

疲れたのなら休憩もいれる。

だから、聞いてくれないか？

。

ありがとう。

なら始めるとしよう。

さつきも言った通りこの話は俺の視点によるもの。

俺が何を見て、聞いて、感じたかの話になる。

まあ俺の物語だからな。

あんたにはあんたの物語があるように、俺には俺の物語があるってことだ。

これから話すのは俺が知り得る話であり、俺だけが知り得る話でもある。

もし俺の話を聞いて、あいつの話も聞きたくなったらあいつを訪ねてみるといい。

たぶん話してくれるだろう。

あいつの物語をな。

俺の話とはまた違ったものが聞けるだろうさ。

たとえ同じ時同じ場所にいたとしても、感じることは人それぞれだからな。

まあ今は俺の話を聞いてくれ。

そろそろ始めるからな。

俺が異世界に召喚された物語を。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0995z/>

異世界珍道記

2011年12月3日20時48分発行